

# 港湾振興便り



2024. 11

第210号

\*:\*

## 目 次

\*:\*\*

1 ポートエッセイ — 持続可能な農業の未来に向けて —  
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

## 2 トピック

- 江差港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました～指定証交付式の開催～  
(江差町まちづくり推進課)
- 北仲フェス2024にブース出展しました  
(関東地方整備局 港湾空港部)
- 「みなとびあ ボランティアフェスティバル2024」が開催されました  
(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)
- 中学生のみなさんが水理実験場を見学しました！  
(北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所)
- 「第24回清水港興津フェア」にブース出展しました！  
(中部地方整備局 清水港湾事務所)
- ジャパンビーチゲームズ須磨2024が開催されました  
(近畿地方整備局神戸港湾事務所)
- 令和6年大分みなと祭りを開催しました！  
(大分港振興協議会)
- 本部港にコロナ明け初の国際クルーズ船「リゾート・ワールド・ワン」が寄港  
(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

\*:\*

## 1 ポートエッセイ —持続可能な農業の未来に向けて—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:

新潟市街地近郊にはすっかり稲刈りの終わった田んぼが広がっている。今年は、梅雨の時期に十分な降雨があり、異常な猛暑には至らなかったことなどから、報道によれば、県内コシヒカリの品質は平年並みの見通しとのことである。

昨年の新潟米は記録的な猛暑、少雨による深刻な影響を受けた。昨年の県産「コシヒカリ」の1等米比率は約5%と過去最低水準となった一方で、暑さに強い品種として開発された「新之助」は約90%を上回る高い品質を保った。米の産地では避けては通れない地球温暖化への対応としてこのような高温耐性品種の拡大に向けた動きが望まれている。

昨年の米の不作も相まって今年夏には一時的な品薄が生じ、スーパーの店頭から姿が消えた。秋に入って新米が流通したことで、この問題はほぼ解消されたが、将来的にまた、同じような事態が起こる可能性はゼロとは言い切れない。

24年産の米の生産量は前年を上回ったものの中長期では減少傾向にあり、農業就業者数も減少の一途を辿っている。多くの農業従事者の方は高齢で、少子高齢化や若者の農業離れによる担い手・後継者不足等が大きな課題となっている。さらに米の生産コスト上昇という問題もあり、今後、これらが放置されれば我が国の米の生産基盤を揺るがすような事態にも陥りかねない。

このような中、農業の稼ぐ力を高め、持続可能なものとしていくため、労働生産性の向上に向けたスマート農業の導入などにより、超省力・高品質生産を実現していく必要があると考えている。

本市でもスマート農業やデジタル技術の導入支援などを通じて、豊富な田園資源を活かした儲かる農業の実現に向けて取り組んでいる。全国各地においても、ドローンや人工衛星を活用した生育状況のモニタリングをはじめ、農薬・肥料の適正量散布や、トラクター・コンバイン等による自動作業、AIによる作物生育データ分析による最適な栽培方法の追求など、様々な取り組みが行われている。こうした取り組みを通して、次世代に継承できる持続可能な農業基盤の確立につながることを期待している。

令和のコメ騒動も落ち着いた今日、生産者の皆さんが大変なご苦勞をされて収穫された新米が店頭と並んでいる。新米の美味しい季節となった。堪能することとしよう。

\*:\*

## 2 トピック

\*:

### ●江差港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました～指定証交付式の開催～ (江差町まちづくり推進課)

令和6年8月7日、江差港が「釣り文化振興モデル港」(※)に指定され、10月30日に指定証の交付式を江差町役場にて開催しました。

交付式では、稲田雅裕国土交通省港湾局長の代理として、佐々木純国土交通省北海道開発局港湾空港部長から照井誉之介江差町長へ指定証が交付されました。照井町長は、「モデル港の指定を受け、釣りによる事故やトラブルの防止、そして交流人口の増加による地域の活性化につながることを期待したい。」と述べました。

本港では、かもめ島の自然を活かしたキャンプ・グランピングや「海釣り」や「磯遊び」等の海洋レクリエーションを推進しております。海のルールとマナーの周知や安全・安心の釣り場環境の整備が求められており、西防波堤を釣り場の候補地として検討を行っています。

令和6年6月には実釣試験を実施し、クロソイやマガレイ等全19匹の釣果がありました。

「釣り文化」の拡大とともに地域の活性化に繋げ、「海とまちをつなぐまちづくり」を実現させるため、設立を予定している「(仮称)江差港みなとまちづくり協議会」において、安全対策・マナー向上などの管理面の検討を進めるとともに、釣り教室等を開催し、開放に向けて取組みを進めて参ります。

※国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。



釣り文化振興モデル港指定証交付式



釣り場解放地区(候補地)

●北仲フェス2024にブース出展しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

令和6年10月19日(土)、20日(日)に「まちと子ども」をテーマとして「北仲フェス2024」が横浜第二合同庁舎や北仲ブリック&ホワイト1階歴史広場などで開催されました。

イベントは今年で5回目ですが、関東地方整備局は今回初めての出展で、19日のみ参加しました。横浜第二合同庁舎会場では、国の参加機関6官署(関東地整、関東農政局、動物検疫所、植物防疫所、横浜税関、関東財務)の業務紹介や、検疫探知犬のデモンストレーション、スタンプラリーなどのコンテンツを楽しんでいただきました。

当局のブースでは約250名の来場者が訪れ、パネル展示や動画上映、マスコットキャラクター「仕事猫」の出演で盛り上がりました。来場されたお子様からは開催時期が夏休みだったら宿題の参考になったという意見をいただきました。また、「仕事猫」の撮影に参加された来場者に対して事業説明できるよう、パネルの展示を工夫したり、パンフレットの配布を行うなど、効率的なPRの場となりました。



関東地方整備局出展ブース



会場内のにぎわい



4官署キャラクター記念撮影会

●「みなとぴあ ボランティアフェスティバル2024」が開催されました

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

令和6年10月5日(日)「みなとぴあ」開館20周年を記念して「みなとぴあ ボランティアフェスティバル2024」が開催されました。

「みなとぴあ」の正式名称は「新潟市歴史博物館」といい、みなとまち新潟の歴史と文化を、展示や映像、体験を通して、学び、感じることができる施設として、信濃川の親水空間「みなと・さがん」と一体化した敷地に、旧新潟税関庁舎などの歴史的建造物に加え、堀や柳などがある、新潟情緒あふれる水辺の空間に平成16年3月に完成しました。

当該イベントは「みなとぴあ」と普段館内でガイドを務めているボランティアの主催で、ボランティアが日頃行っているガイドツアーや、体験プログラムのほか、新潟西港見学などの「みなとぴあ」での日頃のボランティア活動を市民の方々に広く知っていただくことが狙いで開催されました。

当事務所へ同イベントへの協力依頼があり、港湾業務艇あさひによる新潟西港見学を行いました。見学者からは、新潟市のシンボルである万代橋を船から眺めることができたことと好評でした。

そのほか、たいけん広場では上がり人形・ぶんぶんゴマづくり、よろい着付け体験など親子で楽しめるものや、ギターの弾き語りでの昭和歌謡、鉄道模型の展示など、プログラムはどれも、みなとぴあボランティアの個性が生かされた魅力的なものでした。



「みなとぴあ」全景



業務艇による西港見学の様子



たいけん広場の様子

●中学生のみなさんが水理実験場を見学しました！

(北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所)

令和6年10月11日(金)、市内中学校の生徒10名が「企業訪問における SDGs 探求学習」の一環として当事務所の水理実験場の見学に訪れました。

今回は、訪れた中学生が少しでも学習や議論に参加し易いよう、若手職員主体で見学会を開催しました。事務所の業務概要説明を行った後の質疑応答では「現在取り組んでいる研究」「海洋保全で油を回収する頻度」等の質問があり、自動係留装置の実証試験や、大型浚渫兼油回収船「白山」の機能について、担当課の若手職員から説明を行いました。また「業務の中で大変だったことは？」との質問には、「入省してからは、経験したことの無い様々な業務の対応や勉強等、毎日が大変です。ですが、最終的にはそういう経験が自分の力になりますので、皆さんも、これから色々な事を経験して行って下さい！」と、新規採用職員が実体験を語りました。

その後、断面水槽での実験を見学した生徒は防波堤の水面下の様子や構造、実験の意義や得られる結果の説明を受けながら、持ってきたタブレットで実験の様子を興味深く撮影していました。

今回の見学会を通して港湾行政に興味を持っていただけたら幸いです。



若手職員からの説明



実体験を語る新規採用職員



断面水槽実験を見学

●「第24回清水港興津フェア」にブース出展しました！

(中部地方整備局 清水港湾事務所)

令和6年10月20日(日)興津国際流通センターにおいて、「第24回清水港興津フェア」が開催されました。清水港の活性化や港湾への理解の深化、賑わい創出を目的としており、当日は冷たい風が吹く中、キッチンカーの出店や山梨・長野方面の野菜果物の販売、自衛隊・消防車両の展示等が行われ、沢山の地元の方が来場し会場は大盛況でした。

当事務所ブースでは、模型実験を通じた防波堤整備効果の体験やパネル展示等による事業内容の紹介を行い、多くの方に港湾事業の重要性について体験いただきました。

今後も港湾事業の取り組みについて興味を持っていただけるよう、引き続き広報活動を続けてまいります。



ステージの様子



防波堤模型



パネル展示

●ジャパンビーチゲームズ須磨2024が開催されました

(近畿地方整備局神戸港湾事務所)

令和6年10月5～6日、四季を通じた賑わいづくりとして様々な取り組みが進められている神戸市・須磨海岸にて今年で2回目となる「ジャパンビーチゲームズ須磨2024」が開催されました。

今回は8種目の公式競技と11種目の体験 PR 行事のほか様々なコラボレーションイベントが行われ、ブースを設置した神戸港湾事務所では、来場者に国土交通省が災害時に果たす役割や防災に関する活動等の取組を紹介しました。



神戸港湾事務所ブースの様子



パネルや海洋環境整備船の模型を用いた来場者への説明

●令和6年大分みなと祭りを開催しました！

(大分港振興協議会)

令和6年11月4日、東九州の物流拠点「九州の東の玄関口」として大分港の重要性と価値の高さを広くPRするため、「大分みなと祭り」を開催しました。

イベント当日は晴天で、魚のつかみ取りや参加頂いた各機関の展示ブース、海上自衛隊の潜水艦の一般公開など様々な企画を実施し、来場者は昨年より80人ほど多い 7,799 名にお越し頂き、大盛況となりました。

大分港は昭和26年に重要港湾(国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点となる港湾)に指定され、大分臨海工業地帯の発展を背景に東九州の物流拠点としての地位を確立してきました。

さらに今後も「九州の東の玄関口」としての発展を続けるためには、官民の港湾関係者のみならず、広く一般県市民にも大分港が地域経済へ大きく貢献している事を認識してもらおうと共に港湾振興の重要性を理解して頂き浸透を図らなければなりません。

この「大分みなと祭り」をきっかけに大分港の更なる発展に繋がることを期待しています。



大分みなと祭りの会場の様子



魚のつかみ取りをして楽しむ子どもたち



盛り上がる会場 カスタムくんと子どもたち

●本部港にコロナ明け初の国際クルーズ船「リゾート・ワールド・ワン」が寄港

(沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課)

沖縄県北部に位置する本部町本部港に国際クルーズ船「リゾート・ワールド・ワン」(総トン数 75,338 トン、全長 268.6m)が初めて寄港しました。本部港への国際クルーズ船の寄港はコロナ禍による中断以降初の寄港であり、同日に本部町役場主催の歓迎式も開催され、特産品の即売会や沖縄民謡などによりクルーズ船の乗客約 2,400 人と乗組員らを歓迎しました。

沖縄県北部は、沖縄を代表する観光地である「海洋博公園(美ら海水族館)」や世界文化遺産の「今帰仁城跡」に世界自然遺産の「やんばる」などの豊かな自然が立地するほか、2025年には新テーマパーク「JUNGLIA(ジャングリア)」が開業予定であり、その近傍港である本部港は、国際旅客船拠点形成港湾にも指定され、クルーズ振興港として大きなポテンシャルを有しています。

今後、「リゾート・ワールド・ワン」のような国際クルーズ船寄港数の増加が期待される一方で、船客の利便性向上に向け、受入環境を整えていく必要があり、改善策の1案としては国の補助制度である「国際クルーズ旅客受入機能高度化事業」を活用した屋根付き通路の整備が予定されています。引き続き補助金の活用を推進していくなど、沖縄県や本部町などと協力し合い、上質な寄港地観光と地域経済の発展に向けて取り組んで参ります。



リゾート・ワールド・ワン寄港写真



歓迎式の様子



即売会の様子



船長と町長の記念撮影

